

平成28年11月教育委員会定例会 会議録

平成28年(2016)11月22日(火)午後2時、出雲市教育委員会定例会を市民応接室に招集した。

1. 会議に出席した委員

教 育 委 員 長	本 田 惠 子
教育委員(委員長職務代理)	松 浦 剛 司
教 育 委 員	下 手 泰 子
教 育 委 員	小豆澤 貴洋
教 育 長	楨 野 信 幸

2. 説明のため会議に出席した者

教 育 部 長	杉 谷 学
教育部次長(教育政策課長)	小 山 裕 美
教育部次長(学校教育課長)	安 井 孝 治
児童生徒支援課長	竹 田 博 司
教育施設課長	金 山 隆 司
学校給食課長	木 代 伸 治
出雲科学館館長	山 本 利 明
保育幼稚園課長	坂 本 伸 仁
児童生徒支援課課長補佐	松 井 博 之
保育幼稚園課課長補佐	鬼 村 修 治

3. 会議の書記

教育政策課主査	和 田 貢
---------	-------

4. 傍聴者

3人

開会

(本田委員長) 只今から、平成28年11月出雲市教育委員会定例会を開会します。本日の会議はお手元に配付しております日程のとおり行います。

1. 会議録の承認

(本田委員長) それでは会議録の承認に入ります。10月定例会の会議録について、何か意見がありましたでしょうか。

(各教育委員) ありません。

(本田委員長) 特に意見等ありませんので、10月定例会の会議録については承認いたします。

2. 教育長行政報告

(本田委員長) 次に、行政報告について、槇野教育長に報告願います。

(槇野教育長) (以下、報告項目のみ掲載)

(1) 前回以降の動向

- H28.10.27 校長会懇談会(予算等要望)
- H28.10.27 学校保健会健康教育研究発表会(四絡小)
- H28.10.27 まちづくり懇談会(神門)
- H28.10.28 市議会全員協議会
- H28.10.28 新規採用教職員連絡協議会
- H28.10.30 斐伊川放水路事業記念館開館式典
- H28.10.31 科学館運営理事会
- H28.10.31 幼稚園長会・幼P連要望
- H28.11.1 教育政策審議会
- H28.11.4 校長の会議
- H28.11.10 市幼稚園教育研究大会(川跡幼)
- H28.11.10 人権作文・ポスターコンクール表彰式
- H28.11.11 県立公立小中学校事務研究大会
- H28.11.14 檜山小・東小再編統合推進委員会
- H28.11.16 県人権・同和教育研究指定園研究発表会(平田幼)
- H28.11.17 教育政策審議会
- H28.11.17 学校医との懇談会

H28.11.18 中学生議会
H28.11.18 まちづくり懇談会(四絡)
H28.11.20 青少年育成推進大会
H28.11.22 教育政策審議会答申
H28.11.22 定例教育委員の会議
H28.11.22 まちづくり懇談会(川跡)

(2) 今後の予定

H28.11.26 古志地区同和教育研究発表会
H28.11.29 市議会初日 ～12.19
H28.12.1 市議会一般質問 ～12.6
H28.12.3 佐香地区同和教育研究発表会
H28.12.7 田儀小・岐久小再編統合推進委員会
H28.12.9 市議会文教厚生常任委員会
H28.12.14 市議会予算特別委員会
H28.12.15 校長の会議
H28.12.15 まちづくり懇談会(稗原)
H28.12.19 市議会最終日
H28.12.20 小中連携推進委員会
H28.12.26 総合教育会議
H28.12.27 定例教育委員の会議

(本田委員長) 只今の教育長の行政報告について、質問等がありますか。

(各教育委員) なし。

3. 報告

(本田委員長) 本日は議事案件がありませんので、報告事項に入ります。報告(1)「第3期教育振興計画の答申について」を、教育部 小山次長に説明願います。

(小山次長) 資料に基づき説明。

(本田委員長) 只今の、報告(1)について、何か質問等はありませんか。

(本田委員長) 「3. 困難を抱える子どもの支援」の「(1) 特別支援教育の充実」の「⑧ 子育て支援・発達支援センター(仮称)の整備」とありますが、今、保育所でも地域の子育て支援センターがあると思いますけれど、ここの幼稚園での子育て支援センターと

の住み分けというか、協力というか、イメージをどのように持ったらよろしいでしょうか。幼稚園限定なんでしょうか。

(竹田課長) もう少し幅広く、学齢期の子も総合的な一貫した支援ができるようにということで考えられている施設でして、各幼稚園とか保育所とか、そういったエリアにあるものではなくて、拠点となるひとつの、仮称ですけどセンターみたいな、そういうところの整備の検討をしますというものです。

(本田委員長) では、出雲市でひとつですか。

(竹田課長) という感じです。拠点となる、センター的な施設です。

(小山次長) 困難を抱える子どもたちの、切れ目のない支援を行っていくために設置する施設です。

(本田委員長) わかりました。ほかにありませんか。

(下手委員) 先ほど委員長さんが言われたところですが、審議会の話のイメージだと、妊娠してから就職する、幅広いところの一貫したものが市にないということから出たお話ですよ。

(榎野教育長) そうです。まだ内部の職員の中でも、意思統一ができていないと思いますけれど、おっしゃったように、妊娠期からずっと、年齢で言いますと39歳まで、若者という定義の範囲を考えています。名称も、子育て支援・発達支援センターとなっていますけど、子育て支援ではなくて、教育と発達支援のセンター的なものですので、名称はどうなのかなという思いは個人的に持っていますので、また検討したいと思いますが、幅広い年齢で、発達障がいですとかいろいろな関係の窓口の一本化といいますか、それから保育所、幼稚園、小学校、中学校、あるいは中学校を卒業した後、情報がうまく伝達されなくて、支援が円滑に継続できないというようなこともありますので、それらを一貫して切れ目のない支援を行っていけるような施設を造りたいと思います。市全体での共通認識に立っていませんけれど、教育委員会の立場で言いますと、不登校とかいうものもこの組織の中の一部ですので、教育支援センターが市内で3つありますけれど、それもこのセンターを拠点というか、そこの出先の施設的な位置づけで運営がなれば、一番いいなと個人的には思っています。

(本田委員長) 次に、報告(2)「教務支援システムの開発状況について」を、教育部小山次長に説明願います。

(小山次長) 資料に基づき説明。

(本田委員長) 只今の、報告(2)について、何か質問等はありませんか。

(小豆澤委員) 一元化した集中管理的なもののソフトウェア導入だとは思いますが、いろいろな各業界でいろいろなこういったものがよく導入され、われわれ障がい者福祉の仕事をしていても、やはりこういうソフトウェアが開発されて導入していくんですが、これを使わないといけなくなるイメージですか。

(小山次長) 今、各学校でやり方が様々なものが、同じものを使って慣れていただくことによって、異動されたときの多忙感が緩和されてくると思います。市教委としては、使ってくださいということで、お願いしていきたいと思います。

(小豆澤委員) 随時、使いやすさをバージョンアップをしながらやっていくということですね。

(小山次長) はい。既に試行稼働しているものについても、稼働してからいろいろなご意見をいただいて、随時手直しをしている部分があるので、ご意見をいただきながら、先生方に使ってもらいやすいように、だんだんと変えていくという考えでいます。

(小豆澤委員) あともう一点、出欠管理の件ですが、これは先生が出席を確認して、誰かが入力すると全部に反映されるというただの出欠管理なのか、例えば児童の登校なり、例えばわれわれ障がい者福祉だと、朝来てタッチすると、タッチからタッチまでが、その利用者がこの時間にこのサービスを利用したという証明になったりするんですけど、これは児童が申し出るものなのか、学校の先生が見ていて管理していくものなのか、ちょっと聞きたいのは、この出欠管理は、もし児童がいなくなった場合にそのことがわかるような便利なものなのか、ただ出席簿がほかにも反映できて楽だという話なのか、どちらなのかということです。

(小山次長) 委員さんがおっしゃった後段の、出席簿がいろいろなところに反映できて便利になるということです。朝礼のときに、健康観察とかされていたりしますが、それによって出欠情報を学期末ごとに、今は数えたりしながらしておられると思いますが、それが一括いろいろ反映されるようになる。それから長期欠席の調査、データの報告などもあります。学校から出てきたものを教育委員会の職員がそれぞれに入れて集計したりということがあるので、学校側も委員会側もこのシステムを使うことで、ずいぶん効率化させていただくことができます。

(小豆澤委員) 得てして、だいたいこういうシステムが導入されると、実は作業量が増えたりすることもよくあり、できればこの出欠管理に、何かある程度の管理というか、子どもがいる、いないということにリンクすると、学校としても安心な面があるのかなと思いました。特にわれわれ知的障がいの人たちを多く抱える仕事をしていると、その

人たちがいなくなった、いなくならないという心配があつて、結構いつもリスクを感じながら仕事をしています。どこかの施設で、来たら体温計を図りますという決め事があつて、体温計がイコール出勤簿になっていて、その後、その人が施設外に出ると、いなくなったのがわかるとか、そういったものがあつたので、これは子どもたちがやるものなのか、学校側がつけるものなのかと聞いたのはそういった理由でした。

(小山次長) そこまでハイテクではありませんね。

(本田委員長) どうでしょうかね。例えばすごいハイテクなものがあつて、子どもが学校へ来てタッチして出席にしても、いなくなるときはタッチせずにはいなくなりますから。校庭で遊んでいると思つたら、どこかに出てしまつて、わかるときには教室の席が空いているとか、あるいはシステムだったら、夜9時ぐらいになつても下校になっていないとかありそうですね。

(小豆澤委員) 逆に、そういった面の心配もありますよね。

(槇野教育長) これは学校側の管理すべき情報としての出欠管理ですから、児童生徒がいるとかいないとかいうことは、当然学校の教職員がきちんと管理すべきものだと思います。

(小豆澤委員) 行政が入れるシステムなので、すごいシステムかなと思つて、興味もあつて聞いてみたところです。

(本田委員長) このシステムは、指定のパソコンがありますか。それともどのパソコンでも、操作ができますでしょうか。

(小山次長) 市内の先生方に1台ずつ、パソコンがあつてそれに入りますので、どの先生も使えます。成績管理とか、担任をお持ちの先生ほか、全部の先生が使われないといけませんので、皆さんが使えます。

(本田委員長) 大丈夫だとは思いますが、時々新聞に載っていることがあつて、持ち出してはいけないのに車に乗って持って帰っておられたり、忙しい時期、土日に家でもしようかと思つておられるかもしれませんが、パソコンが学校外に出ることがあつてはいけませんので、その点は最初からきちんと確認していただきたいと思います。

(小山次長) 皆さんへの研修ももちろんですが、情報セキュリティの強靱化ということで、やはりきちんと対策をやっていかないといけないと思いますし、大事なことなので先ほどの答申の中でも、書き加えたりしています。

(松浦委員) いろいろある項目の中で、負担軽減という名前が先行していますが、どの

項目が一番手間がかかっているとか、重い業務というものがあるものですか。それとも、総合的に、という話でしょうか。

(小山次長) 例えば成績管理で、通知表などは、学校でそれぞれ様式がありますが、手書きでされているところもあれば、先生の所見欄をデータで作られてシールで貼られたりとか、いろいろなやり方をされていると思います。これを使っていただくようになれば、全部そういうものを入れて、個人の通知表として出てくるときに、出席簿の管理をしているところから、学期の出欠状況も数字が入って出てくるというイメージです。やはり異動等によって、やり方が変わったりというところの負担が結構あると思いますが、全体を通じて、これを有効に使っていただくことで、負担軽減につながるのではないかと思います。

(槇野教育長) 今まで、二度手間、三度手間みたいな作業が非常に多かったものを、1回の入力で、あとデータを有効に活用しようということです。

(小豆澤委員) 通知表も各学校で作成されていたものが、今後これを導入すると、どの学校も統一様式というようになるということですね。

(槇野教育長) 一部にオリジナルというか、学校裁量の部分はあるんですけど、基本的には統一です。

(松浦委員) 時間がかかっているものは、より開発が難しいものだったかと思いましたが、そうでもないんですか。

(小山次長) 順番に開発を進めていますし、通知表については学校でそれぞれ違っていましたので、統一化に向けて校長先生に意見を聞いたり、そういう調整に時間がかかったりはしました。

(松浦委員) それで、負担が軽くなったというような調査は、ヒアリングはもちろんだと思いますけれど、今後アンケートなどをもってデータ化されて、また改良に結び付けていかれるという手順なんでしょうか。

(小山次長) こちらが、これで使い勝手がいいかなと思って作っていても、おそらくいろいろな意見が出てくると思いますので、そういう意見は随時いただかないといけないと思います。

(本田委員長) ほかにありませんか。

(各教育委員) なし。

(本田委員長) 次に、報告(3)「12月定例市議会への提出案件について」の①補正予算案件を、教育施設課 金山課長に説明願います。

(金山課長) 資料に基づき説明。

(本田委員長) 只今の、報告(3)の①について、何か質問等はありませんか。

(各教育委員) なし。

(本田委員長) 次に、②「専決処分の報告」の ア. 草刈作業に起因する車両損傷事故と イ. スクールバスによる事故 を教育部 小山次長に説明願います。

(小山次長) 資料に基づき説明。

(本田委員長) 只今の、報告(3)の②について、何か質問等はありませんか。

(各教育委員) なし。

4. 協議

(本田委員長) 次に、「協議」に移ります。教育委員の皆さんが出席された行事や会議について、意見交換を行いたいと思います。感想やご提案があれば伺いたいと思います。まず、(1)学校訪問について、ご意見はありませんか。

(松浦委員) 学校訪問に行くと、学校によって、どうしようという対応と、かなり用意しておられるところがあって、学校訪問に行く意味の捉え方が少しずつ違っていて、不思議だなと思うところがあります。もっとちゃんと、こういうことで行きますから、まずはこれを見せてくださいとか、例えば危険箇所だったり新人の先生の授業だったり、きちんとそういうやり取りができていると、少ない時間の中でもう少し時間を有効に使えるかなと思いました。

(本田委員長) 今の意見に関連して、何かありませんか。私は4年目ですが、最初の年や2年目のときは、暑い時期や寒い時期や、訪問する学校の数も多かったです。

(槇野教育長) 以前は、学校を全部案内するというやり方でしたが、それではあまり意味がないので、その学校の課題を中心にらせてくださいということにしました。子どもたちの様子で課題がある部分とか、建物的に課題があるところでもいいですし、それから併せてお願いをしているのは、新規採用の教員の授業を見せてもらいたいとお願いしています。それが徹底されていたかどうかはわかりませんが、基本的にはそういうお

願いの仕方に、去年から変えています。ですから学校も、課題を何と捉えるかで、動きが変わってきます。それで学校であらかじめ、課題をペーパーにまとめて、最初に校長室で説明をしてから回るというやり方の学校もありますし、いろいろでしたね。それでやむを得ないかなと、思ったりもしていましたけどね。それから授業を見ようと思っても、実は今日はもう大会で出かけていませんとか、あるいは定期テストの試験期間中ですので授業はやっていませんということがあったり、なかなか一様にはいかないなと思いました。

(小豆澤委員) 学校訪問に初めて行かせてもらって、本当にただの感想にしか過ぎませんが、問題を抱える少数支援の学校の取組には、帰り際に教育長に、平等に教育を提供するのに、非常に教育行政側に無理があって、という感想を言ったことがあります。個別支援が必要な子っていうのは、本当にそこにマンパワーが取られてしまったり、日本語指導も、あの時は塩冶小学校を中心に見ましたが、おそらく他校にもああいう子たちがいらっしやると思いますが、そういう特別なマンパワーというか個別支援の必要な子たちの、もう少し集約化みたいなことができないものなのだろうか、ということ若干感じながら見ていました。というのは、日本語指導という共通点で、ある程度幅広い学年を一緒に見ていかなければいけなかったり、でもこれが、ある程度集約化されることによって、学年別の対応がもしかしたらできるかもしれないと思うと、地域地域、それぞれの場所で見っていくというのは、非常にすばらしいことだとは思いますが、どこか無理もあるんじゃないかなという感想をもって見ました。

(本田委員長) そういう日本語指導を一カ所にまとめてという意見は、以前からありません。

(槇野教育長) ひとつは、通学をどうするのかということがあります。それから一カ所でやるのが本当にいいのかどうか、要するに、個人差が非常に大きいので、一番いいのは1対1でやるのがいいですが、今のやり方ですと体制も強化しましたから、結構それに近い状態でできるようになっています。一番必要なのは初期指導といいますか、来日したばかりのような子をどうするか、その子たちの数が増えてくると、今おっしゃったようなどこか1カ所に、プレスクールの的に学校に入る前段のところ、集中的な日本語指導であったり、生活習慣の指導みたいなものをやると効率的なんですけど、実際は入ってくる子どもの数は月に数人という単位ですから、別のところを設けても効率性が悪いというか、それよりもそれぞれ所属する学校でしっかり指導するというのと、そういう子たちのために巡回で回る指導員さんをお願いしていますので、そういう初期指導が重点的に必要な子どもに対しては、必要に応じて巡回しながら日本語指導を行うという方式を今、力を入れてやっています。ですからその辺の人数が今後多くなって、巡回方式が限界ということになるようであれば、おっしゃったようにどこかへ集まってもらおうということも、検討していかないといけないと思います。

(松浦委員) 2年で全校を回るということでしたね。

(榎野教育長) はい。委員長がおっしゃったように、全部を回っていましたが、すごい期間もかかって、暑い時から雪が降るぐらいの時期までかけて回っていましたが、半分ずつでいいのじゃないかということで、何年前からか、こういう方式にしました。

(松浦委員) 先日、台風で中止になりましたが、ああいうときは、何か聞かれたりされましたか。

(杉谷部長) フォローは、していません。施設の修繕などは、言ってこられるのでいいですけど、子どもの状況となると、児童生徒支援課に要望があがってきたりしますので、特別には聞き取りなどはしておりません。

(本田委員長) 学校へ訪問して現場を見たり、生徒や学級の様子、先生の教えていらっしゃる様子を見ることで、わかってくることがあります。塩冶小学校には以前も行ったことがあります。議会でも、廊下で授業をしていると言われましたが、行ってみたら廊下ではなくて、きちんとしたスペースを使っていました。でも見ようによっては、廊下にも見えるという様子もわかりました。やっぱり現場へ行くことは必要だなと思います。

(本田委員長) 次に、(2) 中学生議会についてはいかがですか。

(下手委員) 今年から、質問の仕方を変えられたんですか。二人がちょっと違う質問をしましたが、関連する質問をもうひとつお願いされましたか。

(榎野教育長) 去年と変えています。一人目が最初の質問で、二人目からが再質問という扱いでやりました。二人目の答弁は、こちらは自席でします。最初の子と次の子の質問はあらかじめ出してもらっておいて、原稿の用意はこちらもしているんですが、今年特に良かったのは、3問目をほとんどの学校でやってくれました。それはこちら何も準備なしで受け答えをするということで、やり取りが単純な形で終わらないという感じで、より議会の本来あるべき姿に近づいたかなという気がしました。

(下手委員) 向こうも一生懸命質問を考えているのがわかりました。答弁をしっかり聞いていないと質問は出てこないんで、あの中でよく話を聞いて、質問をしておられるなと思いました。写真なども使って、わかりやすい場面もありました。

(榎野教育長) 国会風になってきましたね。

(本田委員長) 子どもさんだけでは、慣れない面もありますので、指導される先生も、大変だったと思います。先生方にも、たくさんお礼を申し上げたい気持ちです。子どもさんは、やはり学校の代表として出られるほどは、すばらしいお子さんが出られて、毎年ただただ感心しています。小豆澤委員さん、初めて出られていかがでしたか。

(小豆澤委員) 本当に、写真を使った場面では、出雲市の公園は薄暗いなど納得しましたね。教育長から説明があった、主権者教育の主権者という意識付けについて言うと、自分たちの頃には想像もつかなかった取組が、今後どうなっていくのかということに対して興味がわきました。

(松浦委員) 中学生議会は、何回目ですか。

(槇野教育長) 5回目ですね。

(松浦委員) では大学生ぐらいになっていますか。

(槇野教育長) 最初に出た子は、成人した頃ですかね。

(下手委員) 質問して、少しでも改善されたりしたところがあったら、レスポンスしてあげて欲しいですね。

(杉谷部長) 非常に今年は、トータルでは時間はオーバーしなかったんですが、いい経験でしたし、答える方も緊張して3問目を聞いていましたから、そういう点ではお互いに良かったかなと思っています。

(下手委員) 行政側の答えは簡潔で、例年よりわかりやすくなっていて、聞いていて聞きやすかったです。

(槇野教育長) そうですね。今までこちらの答弁が長すぎて、時間が限られていますからもっと簡潔にということをお願いしていました。

(本田委員長) やはり意識されていたのか、「本市」という言葉は、あまり日常生活で聞いたことがないですけど、「本市」と答弁されていて、相手に伝わりやすいようにしておられたのかなという感じがしました。

(本田委員長) その他の事業、会議等については、何かありませんか。

(下手委員) 学校の相談室についてご意見を聞いていて、これからさらに重要な場所になってくると思いますが、学校によっては物置みたいになっていたりとか、夏場などはクーラーも無いような部屋になっていたりとか、学校訪問のときは相談室を見せていただいたことが無かったのですが、管理はどのようになっているのでしょうか。

(金山課長) 相談室にエアコンがついているところが多いと思いますが、物置にしておられるというところは・・

(下手委員) 物置というか、物がおいてあるというか。

(金山課長) あまり利用されていないところも、あるかもしれません。昔の相談室は和室のところがあって、そこは使い勝手が悪くて、使っていない可能性が高いと思います。エアコンは、ほとんどのところが整備をしているはずですが、もし無ければ、特別教室に準じてやっていますので、今後整備していくことになります。

(下手委員) どうしても秘密を守るということが前提になっていますので、締め切って話すことが必要だと思いますので、エアコンの整備をお願いします。

(小豆澤委員) 出雲市学校保健会健康教育研究発表会に出席しました。最近、食育という言葉をよく耳にしますが、なかなか食育ということに関心がいかなかったですけど、あの時、「健康」という言葉が、「健体康心」という四字熟語が省略されているという冒頭のあいさつを聞いたときに、急に調べてみたくなって、自分なりに調べているうちに、食育のことがここにピックアップして書かれていて、食育を調べたり、学校給食を調べたりすると、いろいろな情報があって、こういったことに最近、非常に興味を持って見られるようになりました。あのときを起点に、食育に関して、完全米飯給食がどうだとかいう議論がネット上にあったり、ああいうことに目を惹かれるようになってきました。これは、感想です。

(下手委員) 幼稚園の研修会に先日、行かせていただきましたが、保育所と幼稚園の先生方の連絡というか、つながりなどはどうなっているのでしょうか。

(坂本課長) 保育所と幼稚園は、去年から合同での研修、公開保育を、お互いに交流しながら行っています。今年は、幼稚園2カ所、保育所2カ所で交流をしまして、来年1月の終わりに保育士と幼稚園教諭合同での研修会をすることにしております。去年から始めて、まだなかなかうまくいかないところがありますが、そういったことをどんどん広めて、お互いにいいところを見ながらやっという事で、試みしています。

(下手委員) あるんですね、よかった。

(本田委員長) 先日の市内2カ所の幼稚園の研究会も、保育所の方が出席なさっていましたよね。

(坂本課長) あのような研修会の際に公開保育ということで、お互いに行き来をしながらやっています。

(本田委員長) 幼稚園の研究会の際に、あの日はかなり寒かったような気がしますが、幼稚園の先生は子どもと一緒に裸足で走り回ったりしておられたり、何よりも印象的だ

ったのは、子どもから引き出そう、子どもの考えを言わせようというような先生方の姿勢が見られて、いいなと思いました。例えば、何時までだよとか、今度これを使ったらとかという押し付けではなくて、いつまでにしようと思うと聞いたり、どうしたらいいと思うなどと、一生懸命、子どもたちに考えを出させようとしておられることが感じられて、いいなと思いました。幼稚園の先生方の一生懸命なさっている姿に、感動しました。

それから、科学館の山室先生のシジミのお話を聞きに行きましたが、先生が、書いてあることをそのまま鵜呑みにしたり信用してはいけない、自分で考えて自分でその原本を確かめてからでないと信用してはいけない、ということをおっしゃって、そうだなということであらためて思いました。なんでも自分で考えるということは、必要なことだなと思いました。

(本田委員長) ほかにありませんか。

5. その他

(本田委員長) 次に、「その他」に入ります。教育委員会の後援・共催事業について、教育部 小山次長 に説明をお願いします。

(小山次長) 資料に基づき説明。

(本田委員長) 只今の報告について、質問等はありませんか。

(各教育委員) なし。

(本田委員長) その他、委員の皆さま、あるいは事務局の方で、何かございますか。

(各教育委員) なし。

6. 次期教育委員会の開催時期

(本田委員長) 次期教育委員会の日程ですが、12月27日(火)の、午後2時から、市民応接室で開催いたします。それでは、以上をもちまして、教育委員会11月定例会を閉会します。

(15:17) 定例教育委員会閉会